



第23回「Qの会」  
研修会報告

10月23日香川大学において「Qの会」第23回研修会が開催されました。今回のテーマは「療養生活を支えるフットケア」ということで、香川労災病院糖尿病看護認定看護師西原環先生による講演とグループディスカッションを行いました。

講演では、フットケアの考え方の方の基礎から実践的な指導の仕方を事例や資料を交えて分かり易く説明していただきました。

その後、「蜂窩織炎で入院を繰り返す患者」と「足潰瘍を持つ患者」2事例についてグループディスカッションを行いました。グループディスカッションではよくある事例だったこともあり、指導に関する活発な意見交換ができました。色んな意見を聞くことにより、フットケアを通じた患者との関わりや指導方法が学べました。

**研修会アンケート結果**  
第23回研修会参加47名のうち36名より回答をいただきました。  
講演について、良かった

理由は「行動変容に置き換えて説明してもらいよかったです」「改めてフットケアには足の状況・生活状況・全身状態・セルフケア状況が大切だと感じた」「事例があり分かり易かったです」でした。グループディスカッションでは「たぐさんの意見が出ていろいろな支援があるのが良かった」「初期教育の必要性と患者との信頼関係の大切さがわかった」「看護師の役割を考える良いきっかけになった」という意見がありました。

今後の研修会のテーマについて「災害時の糖尿病看護」「糖尿病看護の地域連携」「高齢糖尿病患者とのかわり方」「糖尿病患者の心理」などたぐさんの意見がありました。アンケート結果を参考にし、より良い研修会にしていきます。



香川県糖尿病療養指導士看護  
ネットワーク「Qの会」  
第24回研修会・平成29年  
度総会のご案内

日時：2017年6月25日（日）9時30分から  
場所：香川大学医学部看護学科305教室  
メインテーマ：災害時の糖尿病患者の支援（仮）

**学会・研修会のご案内**  
認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

★第60回日本糖尿病学会年次  
学術集会・・・第2群 4単位  
日時：2017年5月18日  
（木）～20日（土）

場所：名古屋国際会議場  
連絡先：FAX 06・62  
21・5938

★第5回日本糖尿病療養指導学  
術集会・・・第2群 4単位  
日時：2017年7月29日  
（土）～30日（日）

場所：国立京都国際会館  
連絡先：FAX 03・35  
14・1725

★第22回日本糖尿病教育・看護  
学術集会・・・第1群または第  
2群 4単位  
日時：2017年9月16日  
（土）～17日（日）

場所：福岡国際会議場・福岡  
サンパレス  
連絡先：FAX 092・4  
37・4182

療養をささげるフットケア

香川労災病院 糖尿病看護認定看護師 西原 環

「おしゅれば足元から」「足下をみられる」「足をすくわれ」  
「あの人は地に足がついた人」などと言われるように、  
足はその人の性格や人柄、物事の確信として例えられます。  
目が届きにくい身体の末端にある足ですが、全体重を支え歩  
行を可能にしている足こそ手入れをし、意識する必要がある  
重要な部分です。

近年、食生活の欧米化や高齢化により糖尿病足病変を合併  
する患者さんが増加し医療的フットケアが注目されていま  
す。糖尿病足病変は特別な状況で起こるのではなく、日常の  
些細なことから起こり重症化してしまうことが多いため、患  
者さん自身が自分の足に関心を持ち、ケアをして足を守るこ  
とができるよう教育することが必要です。

リスクを高める生活によって足病変を繰り返す患者さん  
に対し、何度も説明しているのに、なぜ分かってもらえない  
んだろう、なぜできないんだろうと思っていました。振り返  
ると患者さんの足の状況や血糖値など身体的側面にとらわ  
れ、自分の価値観を押し付けていたのではないかと思いま  
す。患者さんを理解しようと少し見方を変えて関わると、家  
族のために仕事中心の生活を送り、社会的役割が生きてい  
てもあり、身体のことよりも仕事を優先する心理状況が分か  
りました。そして、少しずつ身体への思いやりが気持ちも話  
してくれられるようになり、傷ができていないか足を見るとい  
う変化がみられるようになりました。

いくら適切な方法だと思っても患者さんがやる気になら  
なければ実行には至りません。患者さんが自分の足や身体を  
どのように考えているのか、どんなことならできそうか、患  
者さんと一緒に考える事が大切です。

みなさんもなかなか患者さんが変わってくれないと感じ  
ることはありませんか。患者さんの行動を変える前に私たち  
支援者がその姿勢を変えなくてはなりません。

◆編集後記

より一層「Qの会新聞」を楽しんでいただくために、  
次号から「トピックス」として、糖尿病に関する質問や疑問、また  
おもしろい川柳なども募集します。ぜひメールをお寄せください。  
木村裕美・串田久美

発行所 香川県糖尿病療養指導士看護ネットワークの会

<http://www.anokai.org>